

會社取一郎ト共ニ帝政區青山南町六・三八社長定ラ許可シ社
長土屋正明ト會見シ頭ヲ以テ

(1) 未拂給料即時支拂ハレタシ

(2) 船底手當支給ケレタシ

ト要求セレカ社長ヨリ會社ノ状態ヲ詳細説明シ會社ノ窮状ヲ
述ヘ諒解ヲ求メ自合トシテハ會社建直シノ為メ古事得ノ限り
努力シテ居ルガ何分ニミ意ノ如クナラス諸君ニ對ニテハ同情
ニ堪ヘス此ノ際東都急航ニ讓渡スレラ最善ノ策トシ竟レシ方
法ニシテ今即時未拂給料ノ支拂ヲ要求サルニエ到底支拂能力
ナキニ不貲取讓渡金一千円(株券)全額提供スレバ信キ會社ノ
窮状ヲ察シテニテ承知ベラレ度シト折衝、結果左記一丸ラ代
表者ニ平支セリ

左記

東都急航株式會社ニ董都契約ニ依ニ東京急航船合資會社ノ營

書體代金一千円也(株券)ヲ船隻一同ニ夥スル分配方法ニ就テ
一千円書體代金一千円シ候
昭和六年一月八日

東都急航株式會社

土屋正明

右
根
據
一
郎
殿

四
書
物
側

折衝、結果會社ノ窮状ニ就テハ同情アルエ飽返未拂給料ノ
要求ヲ為スヘク對策ヲ講スル模様ナリ

(2) 事務主側

事務主側ニ於テハ目下極度ニ窮シ到底勞傷者側ノ要ニ對シ
全部容認スルコトハ不可能ナルエ從事實、境遇ニ對ニテハ
同情シ爰リ東都急航株式會社ニ支拂シ賃金取引ヲ乃シ從事實